

都道府県別賞一等

保険はお守り

富山県 高岡市立国吉義務教育学校 三学年

山崎 葵衣

「保険はお守りなんだよ。」

私が、保険について、深く考えるきっかけとなったのは母の一言からだった。

この間、家族みんなで家族写真のアルバムを見ながら昔の思い出話をしていった。すると、私が手に取ったアルバムには私の知らない私が残されていた。それは、入院している小さい頃の私の写真だった。

「私って、小さい頃入院してたの？」

と、とつさに母に尋ねると、母は私が入院していた頃の話をしてくれた。私は、四歳の頃にぜんそくになり、二度も入院しているという。症状はかなりひどく、入院する日々が続いていたそうだ。まだ幼かった私は、毎晩家に帰りたくて泣いていたという。家には、当時の私が使っていた吸入器があり、母がそれを見せてくれた時に本当だというふうに思い知らされた。思うことは多くあったが、二度も入院しているということは入院にかかった費用や治療費などお金が多かったのではないかという申し訳なさが、一番大きかった。そんな私を見て、母はこう言った。

「家族や病院の先生、看護師さんにもたくさん助けてもらったし、保険にも助けられたね。」

私は生まれた時から保険に入っており、ぜんそくでの入院費などは保険のおかげで負担が少なかったという。その時までには、保険など自分にまったく関係のないものだと思っていたが、自分の命を支えてくれる大切な存在だと知った。その後、保険について母からたくさん聞いた。母の言葉で一番心に残っているのは、

「毎月決まったお金を払って、自分がいつ、どこで、何が起きるか分からないから、普段から備えておく必要があるんだよ。保険は命のお守りだね。」  
という言葉だ。

自分の一枚の写真から、昔の自分や保険について学ぶきっかけとなった。今、自分がこうやってあたりまえのように生活できているのは、「保険」に守られているからなのかもしれない。今回、生きていくうえで「保険」はどれだけ大切な存在なのかを考えさせられた。考えるきっかけをくれた母にも感謝したい。また、保険に入る決断をしてくれた親の思いやりにふれて心から恩返ししたいと思った。将来、自分が大人になったら保険についてよく知り、自分のために、

## 第60回中学生作文コンクール

家族のために入ろうと思えた。そして、より多くの保険を知らない人たちに、保険について知ってもらいたいと思った。

「おはよう」、「ただいま」の何気ないあいさつ、家族との時間、自分のために何かを頑張ること。一つ一つのかけがえのない日々は多くのものに支えられ彩られている。毎日に感謝して、生きていくことに感謝して、見守ってくれている保険に感謝して、これからの未来を強く歩んでいきたい。